

ソフトウェア・メンテナンス研究会 ～10年後の保守を考える～

葉山合宿 Cグループ

今年度参加メンバー

- 中央コンピュータ株式会社 伊藤 順一(リーダー)
- 株式会社アイ・ティ・フロンティア 丸山 陽一
- アイエックス・ナレッジ株式会社 井瀬 英晶
- アイエックス・ナレッジ株式会社 岡田 浩
- 東芝ソリューション株式会社 佐井 由美子

前年度の研究テーマ

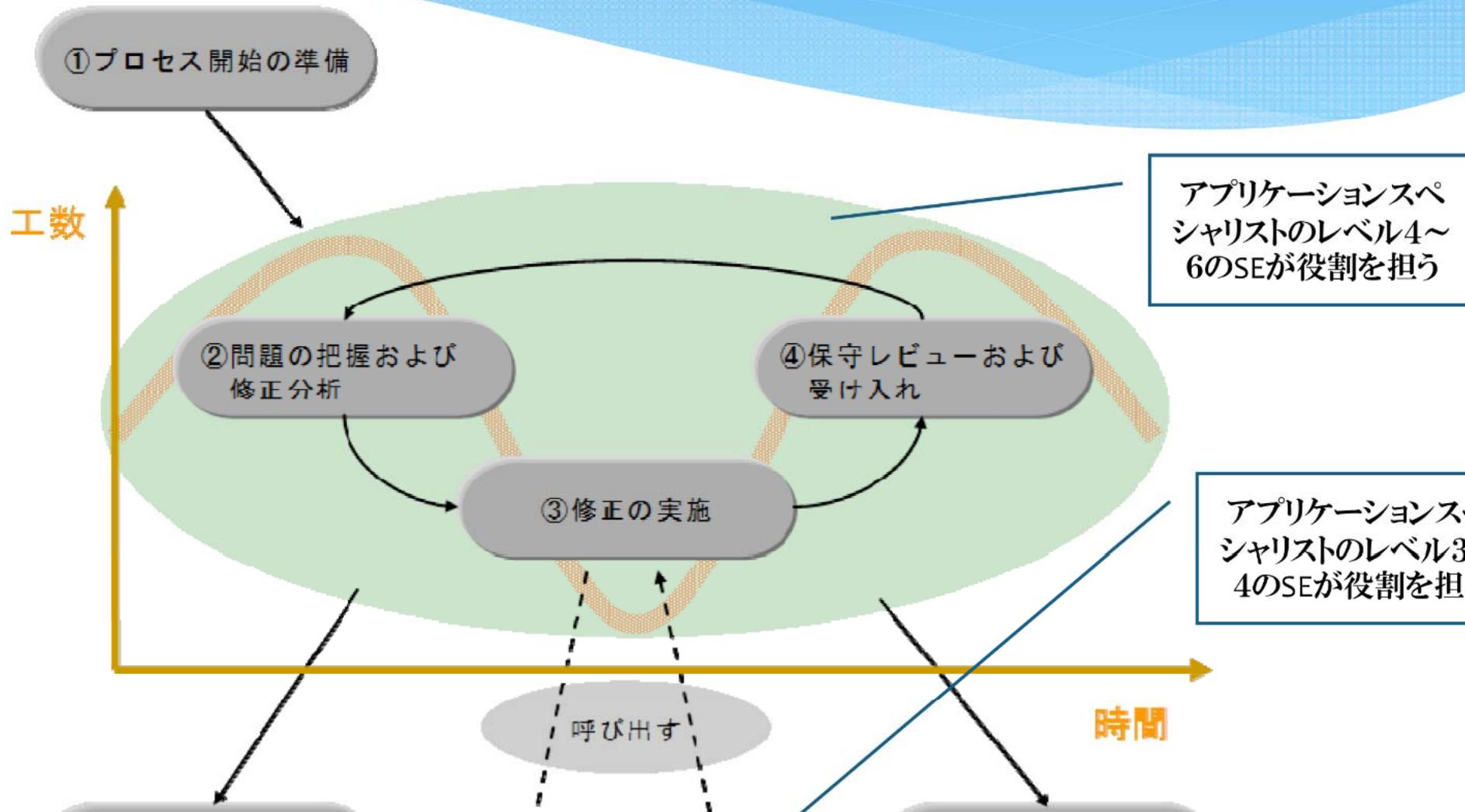
- 複雑化、多様化して行くソフトウェア保守環境をどうやって若手エンジニアにノウハウを伝承していくか考え、そのために前年度では10年後のソフトウェア保守がどうなっているのかについて議論した。その結果ソフトウェアは二極化していくとの結論に達した。
- ビジネス上の戦略的システムは現行の延長で残る
- ビジネス上の汎用的システムはクラウドサービスに移行する

今年度のテーマ

- 保守プロセス標準化の向上策を考える
- 昨日の基調講演において標準化がソフトウェア保守の効率化有効であるということが分かった。
- ソフトウェア保守をすべて標準化すればノウハウの伝承が楽になるのではないか？
- 標準化していると言っても各社の標準化レベルはバラバラであると思われる。
- Cグループ参加メンバー4社の標準化状況をJIS規格と照らし合わせ、標準化状況を把握し、どういうものをドキュメントとして残す必要があるかを議論する。

JIS X0161「保守プロセス」とSMSG「フタコブらくだ曲線」

保守の現状



「トランス(木)」

- 各タスクに必要なドキュメントのサンプルを把握して行く(4社の状況を把握し良い例、不足している点等)
- 1 プロセス開始の準備(2012年)
- 2 問題の把握及び修正分析(2013年)
- 3 修正の実施(開発プロセス)(2014年)
- 4 保守レビュー及び受入(2015年)
- 5 移行(2016年)

活動計画

- 12月 JIS X0161の意識合わせ(規模、特性を共有)
- 1月 各社標準化状況を説明
- 2月～4月 各社標準化状況評価
- 5月～6月 まとめ(良い例、悪い例)
- 6月フォーラム開催
- 7月～9月 レポート作成